

平成 15 年 新年を迎えて

渡辺 正

明けましておめでとうございます。

新年を迎えて、改めて全世界の恒久平和の実現を祈念するものであります。

一昨年 9 月 11 日に、アメリカに信じられないような事件が起こりました。ニューヨークに於ける同時多発テロによって、数千人の人々が亡くなる大惨事が起こりました。

これはアフガニスタンの狂言的イスラム信仰集団タリバンによって実行されました。これはアメリカ文明社会に対する挑戦であり、アメリカは直ちに圧倒的な航空戦力によってタリバンを潰滅させました。しかし、国際テロ組織アルカイダは、中東、東南アジア、ヨーロッパ各地に潜在しており、テロ攻撃の機会をうかがっており、国際テロ組織の潰滅には数年の数年の長期間を要するといわれています。

一方対テロ戦争を契機に全世界にはアメリカを先頭に覇権主義が横行しており、「言う事を聞かなければ、一発ブチ込むぞ」というやり方ですが、しかし武力だけでは、つまり霸道では世界平和を実現することは出来ません。石原莞爾将軍は「戦争は万物と同じように発達の極限に至って死滅する。戦争の終滅が永久平和実現の第一歩にほかならない。」と喝破しております。

世界平和を実現する指導精神は王道（道義による政治）であります。

現代はまさに「永久平和」が実現する前夜最終戦争時代であります。

この重大な節目の時期わが国は政治、経済、教育、環境問題等あらゆる分野で確固とした方針を確立して前進しなければなりません。しかるにわが国の現状はというと、政治の混迷、経済の停滞、教育の荒廃等まことに目を覆うばかりの惨状です。

この根本原因は歴史観の欠如にあります。「世界平和は必ず実現する」という確信の見通しがないのです。最終戦争時代の指導精神はアメリカが誇示しているような覇権主義（武力による政治）ではなく、王道（道義による政治）によるものでなければなりません。

われわれは日本国を王道によって立て直すことが急務です。

アメリカのカーター大統領はノーベル平和賞の授賞式で『世界は平和の千年紀に入るのではなく、より危険になった。テロにより無傷でいられる国がないことがはっきりした。超大

国も例外ではない。』と述べています。われわれは石原莞爾思想で日本国を建て直して、中国、韓国等アジア諸国の信頼を回復すべく努力しなければなりません。会員皆様のご指導とご協力をお願い致します。